

背景・目的

国や都道府県では、これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表してきました。

国土交通省では、これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討および水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取り組みを推進することを目的として、発生頻度が高い場合から比較的低い場合までの降雨規模毎に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」および「水害リスクマップ」を作成・公表することとしました。

なお、現在の多段階の浸水想定図および水害リスクマップは、仁淀川本川の氾濫のみを示しておりますが、今後は、仁淀川本川以外(支川)の河川氾濫や内水氾濫も考慮した図を作成・公表していく予定としております。

注意点

※多段階浸水想定図及び水害リスクマップは、水防法に基づく図ではありません。

※想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和2年3月に指定・公表したものを表示しているため、計算条件(河道条件、支川の氾濫を考慮など)が異なります。

※【短期河道・中期河道・中長期河道】については、水害リスクマップに記載の時点における整備進捗状況を想定した河道条件で作成しており、今後整備状況は変化する可能性があります。

【多段階浸水想定図】

仁淀川の現在および今後の整備予定を河道条件として設定し、1/10、1/30、1/50、1/100規模の降雨での浸水想定をシミュレーションし図化したもの。

【水害リスクマップ】

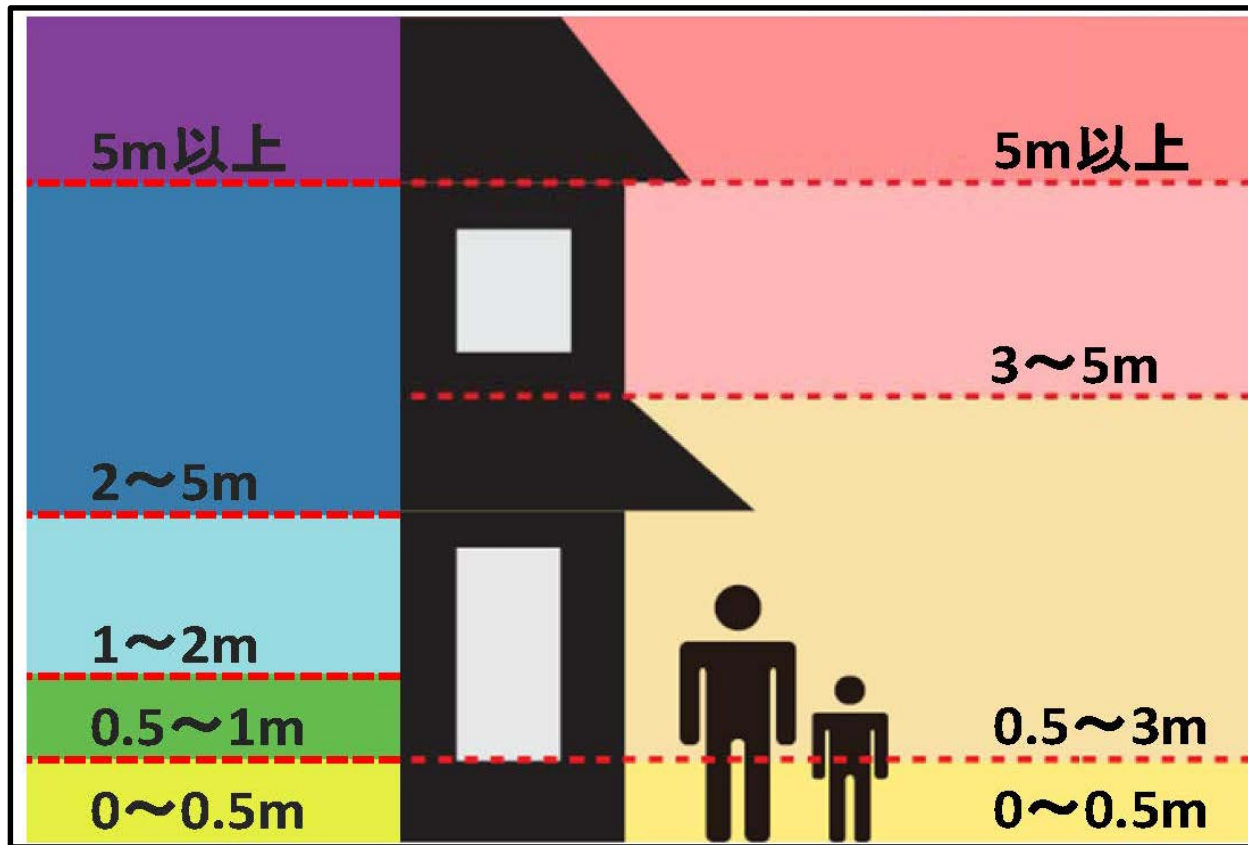
多段階浸水想定図を「浸水の深さ」「降雨の発生頻度」ごとに重ね合わせたもので、ある地点において●●cm(m)以上浸水する確率(リスク)がどの程度なのかを示した図面。

【河道条件】

それぞれの表す意味は下表のとおり。

河道条件	表す意味
現況河道	令和2年度末時点の河川整備状態
短期河道	令和7年度末時点の河川整備状態
中期河道	令和12年度末時点の河川整備状態
中長期河道	仁淀川水系河川整備計画(平成28年12月)の完了

浸水深と家屋の関係



浸水深(m)	浸水の程度
0~0.5	床下浸水(大人の膝高)
0.5~1.0	床上浸水(大人の腰高)
1.0~2.0	1階の軒下まで
2.0~5.0	2階の軒下まで
5.0~	2階の屋根以上

年超過確率とその雨量

年超過確率

その雨量

1/10

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10(10%)

仁淀川流域で2日間の総雨量が421mm

※同程度の降雨:平成19年7月台風第4号 【411mm/2日間】

1/30

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30(3%)

仁淀川流域で2日間の総雨量が509mm

※同程度の降雨:平成26年8月台風第11号 【515mm/2日間】

1/50

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50(2%)

仁淀川流域で2日間の総雨量が547mm

※同程度の降雨:昭和38年8月台風第9号 【530mm/2日間】

1/100

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%)

仁淀川流域で2日間の総雨量が597mm

※同程度の降雨:平成26年8月台風第12号 【574mm/2日間】

1/1000

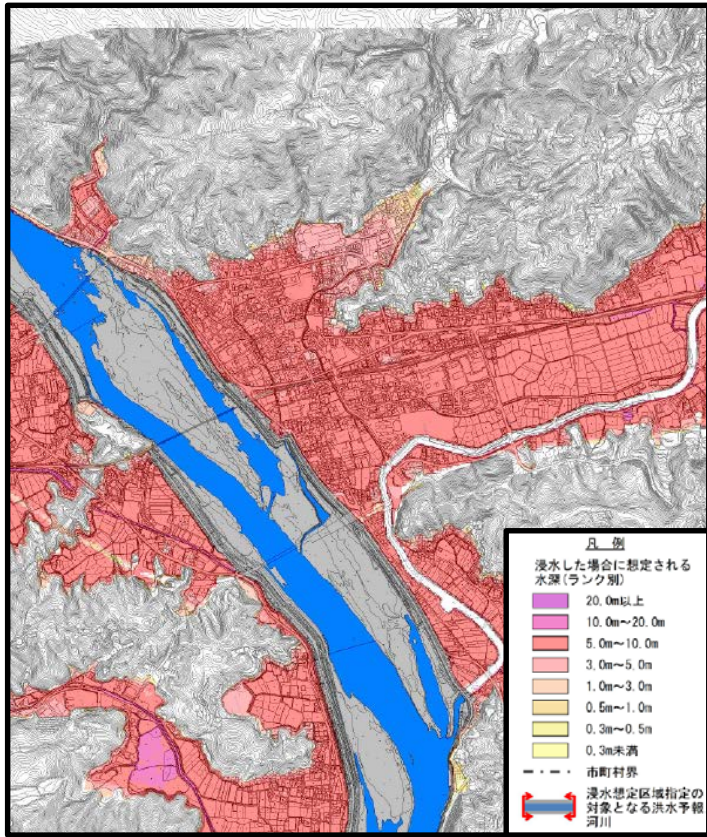
(想定最大規模)

毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/1000(0.1%)

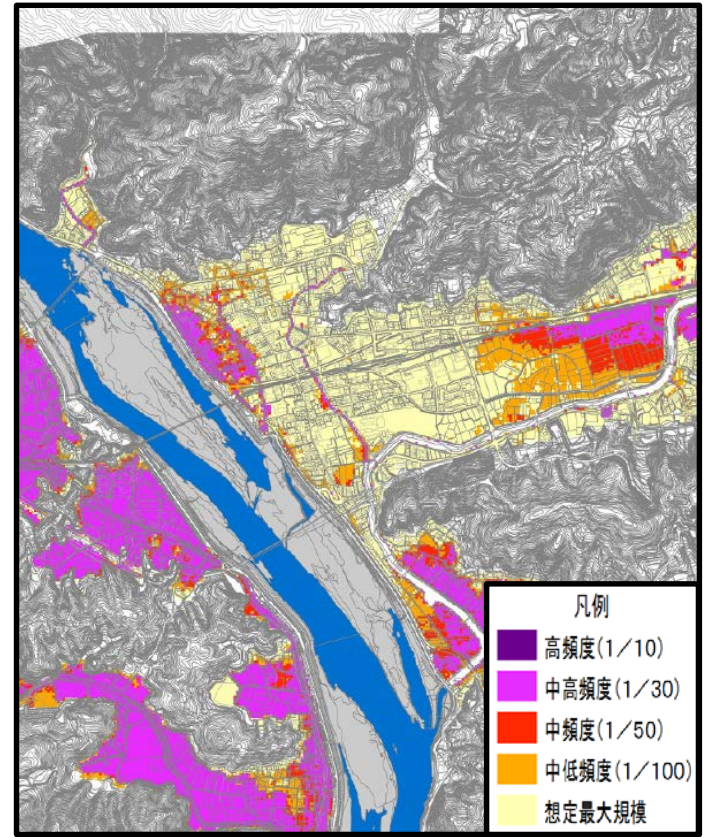
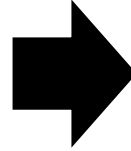
仁淀川流域で2日間の総雨量が904mm

※平成23年7月洪水(台風)で四国南部地域で実際に降った強さの雨が仁淀川流域に降った場合

洪水浸水想定区域図(想定最大規模)と水害リスクマップ



洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



水害リスクマップ

浸水深3m以上(2階床下浸水相当以上)

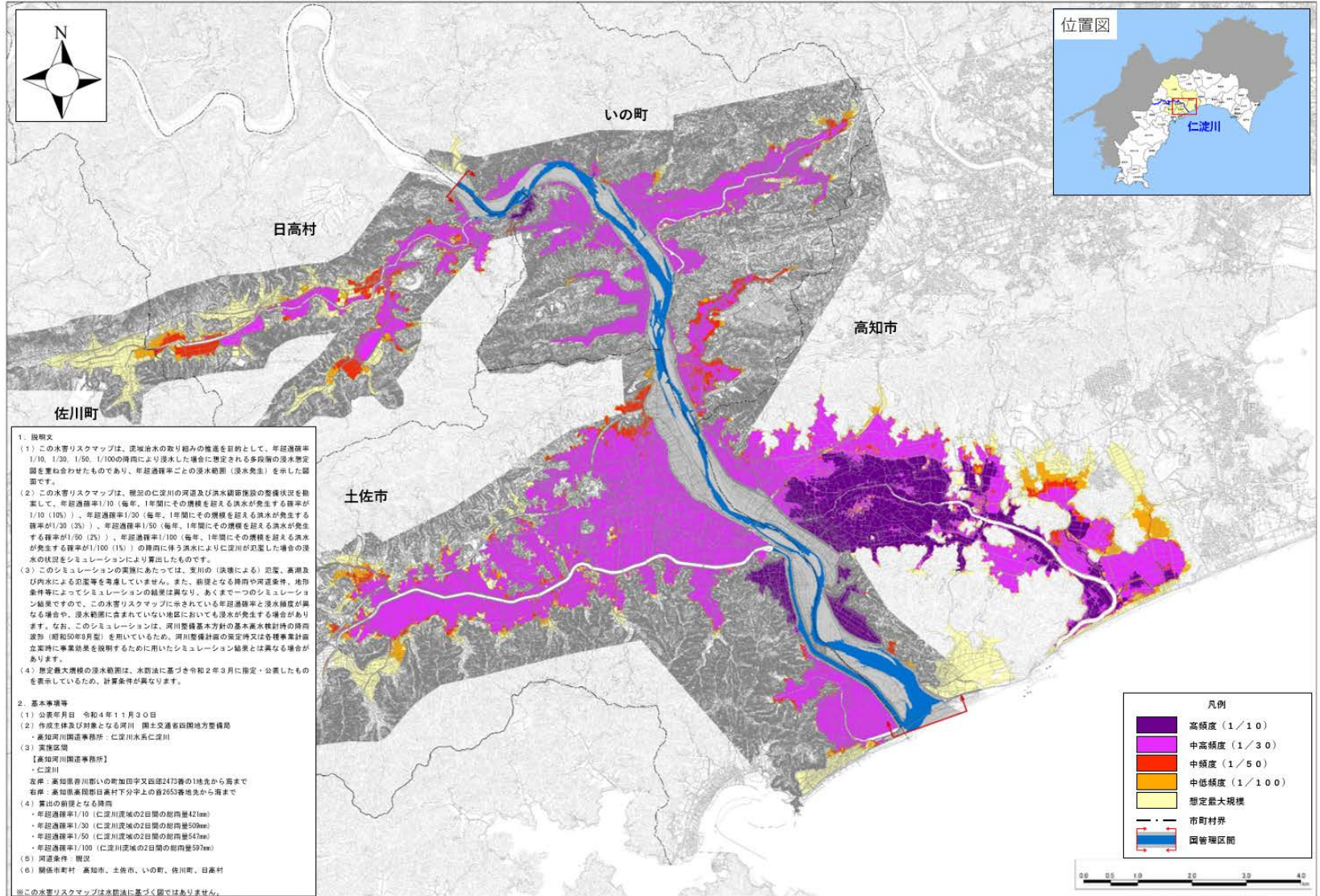
洪水浸水想定区域図(想定最大規模)では、被害の大きさ(浸水深)しか、表示していなかったが、水害リスクマップでは被害の発生確率を表示することにより、同じ浸水区域内であっても場所によってリスクが異なることを可視化することができる。

手順①まずは調べたい場所と河道条件を確認

仁淀川水系 仁淀川からの氾濫を想定した水害リスクマップ

【現況河道（令和2年度末）】

浸水する範囲を表示



1. 説明文
- この水害リスクマップは、近海治水の取り組みの推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定範囲を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
 - この水害リスクマップは、現在の仁淀川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10%））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3%））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50（2%））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により仁淀川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
 - このシミュレーションの算出にあたっては、変化的（気候による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なる、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水範囲が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本水統設計時の降雨波形（昭和50年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を検討するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
 - 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和2年3月に指定・公表したものを表示しているため、計算条件が異なります。
2. 基本事項等
- 公表年月日 令和4年11月30日
 - 作成主体及び対象となる河川 国土交通省四国地方整備局
・高知河川国道事務所 仁淀川水系仁淀川
 - 実施機関
【高知河川国道事務所】
・仁淀川
左岸：高知市川部いの町加田印字又四道2473番の1地先から海まで
右岸：高知県高知郡日高村下分字上の番2653番地先から海まで
 - 算出の前提となる降雨
・年超過確率1/10（仁淀川流域の2日間の総雨量42mm）
・年超過確率1/30（仁淀川流域の2日間の総雨量39mm）
・年超過確率1/50（仁淀川流域の2日間の総雨量37mm）
・年超過確率1/100（仁淀川流域の2日間の総雨量35mm）
 - 河道条件：現況
 - 関係市町村 高知市、土佐市、いの町、佐川町、日高村
- ※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

凡例

高頻度 (1/10)
中高頻度 (1/30)
中頻度 (1/50)
中低頻度 (1/100)
想定最大規模
市町村界
国管理区間



水害リスクマップの具体的な見方・活用例

手順②3つの図を並べて見比べる

①浸水する範囲

②浸水深50cm以上
(床上浸水相当以上)

③浸水深3m以上
(2階床下浸水相当以上)

想定最大規模の雨でも2階以上は浸水しない場合の活用例

⇒ **【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】**

平屋建ては行わない。2階以上を居住スペースとする、ピロティ構造にするなど、建築構造の参考に活用することが可能。

⇒ **【企業BCPに利用する場合】**

事業継続に必要な資機材は2階以上に移動させる、止水壁を検討するなど、BCPの検討に活用することが可能。

想定最大規模の雨で2階以上が浸水する場合

⇒ **【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】**

既に公表している洪水浸水想定区域図(想定最大規模)で浸水深を確認し、避難所の場所や床高を検討することが可能。